



元気っ子

No 332 ながさわ保育園

園長 中瀬 弦 偉

さて、新しい年度がスタートするに当たり、保護者の皆様も気持ちの引き締まる思いをされていることかと思ひます。そこで、令和7年度最初の「元気っ子」ではご家庭でも実践のしやすいようなお話からさせていただきますと思ひます。

まず、保育園にお子さんをお預けになる保護者の皆様は、我が子に対してどのような思いをもってお預けになられているでしょう。恐らく全ての保護者は「子どもが幸せになってほしい」と願っていることかと思ひます。では、その「幸せ」とはどのようなことでしょうか。それは子どもたちが、未来を強く逞しく生き抜く力を身に付けることで、幸せに生きられるのだと思ひます。何か上手くいかないことが起こったときに、それを他人のせいにするのではなく、自分自身で解決していくことができれば、自分で、目標をもって未来を決めていけます。それは「幸せ」なことには他なりません。

では、具体的に「未来を強く逞しく生きる力」とはどんな力でしょうか。それは主体的、自律的であり、思いやりがあって人と協働できる力だと思ひます。ながさわ保育園では、特にこういった力が育まれるような環境を用意しながら保育を行っています。その際に、ご家庭でも是非、ご協力頂きたいことがいくつかございます。

まず、子どもが自律心をもって行動できるようになるためには、乳幼児期に自尊感情（自己肯定感）がしっかりと育まれていることが前提になります。これは日本赤ちゃん学会でも小西先生がお話されていますが、どんなことでも、まずはしっかりと子どもの言葉を受容してあげることで育まれます。この「受容」は、しばしば誤解されやすいのですが、子どものワガママを「受け入れる」ことではありません。「ワガママ」であったとしても、一度は「そういう気持ちなんだね、分かるよ」と受け止めることが「受容」です。そうしたうえで、「でも、今はこういう状況だよ」と「言い聞かせ」をしなくてははいけません。これをご家庭でも是非、実践して頂きたいと思ひます。

次に、子どもが主体的に活動するために、「自己決定」できる環境を作りたいと思ひます。これは一日入園でもお話をさせていただきましたが、例えば、朝起きて、着る洋服を前日に決めておくことなどが取り組みやすいかと思ひます。「自分のことは自分で決める」ことが習慣化されていくと、何か不都合なことが起きたときに他人のせいにするのではなく、受け入れる覚悟が芽生えてきます。これは子どもから求められていないにも関わらず、アレコレとサービスや物を与えたりすることにも気を付ける必要があります。こういったサービス過多を受けると「楽しくないのは大人のせい」という思考が始まります。当事者意識の欠落です。これでは未来を強く逞しく生きることは難しいでしょう。

保育は優秀な小学生を育てるためのものではありません。20年30年40年先に「幸せに生きる」ためのものです。優秀な小学生を育てるために保育があるとしたら、大人からの指示通りに動けようになるための指導をすれば良いのですが、社会に出て、一つ一つ丁寧に指示してくれる世の中なんてありません。それこそ自分で判断して、行動に責任をもてるようにならなければ生きていくことは大変です。

一年間、保護者の皆様とは、未来のビジョンを共有しながら保育をさせていただきますので、何卒ご理解ご協力下さいますようお願い致します。